

矢作川流域圏懇談会通信

R6 流域連携 vol. 1



発行日：令和6年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2024 を開催しました！

矢作川流域圏懇談会では山部会を中心に、2013年度から中山間地振興に携わる団体や、川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」「流域圏担い手づくり事例集」を計8冊発行してきました。あわせて、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざした事例集交流会を毎年開催してきました。2023年度には海に流域の問題が集約されるとの思いから、初めて伊勢湾・三河湾の豊かさをテーマとした事例集を発行しました。

事例集交流会 2024 は第54回海部会WGを兼ねての開催となりました。会場の鳥羽市立海の博物館には今までで最多の41名が集まり、多様な取材対象者と寄稿者、関連する活動団体の報告を聞き、意見交換を行いました。交流会前には参加者が館内の展示を熱心に見学する姿も見られました。翌日は答志島でエクスカーションを実施しました。奈佐の浜海岸のゴミの状況や、奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷についての説明を聞き、その後海女小屋で新鮮な魚などを食べながら海女さんの貴重なお話を聞きました。

事例集交流会

日時：R6年7月6日（土）13:30～16:40

場所：鳥羽市立 海の博物館

参加人数：41名（事務局を含む）

エクスカーション

日時：R6年7月7日（日）10:00～13:00

場所：奈佐の浜海岸
奈佐の浜海岸周辺の湿地帯
海女小屋

参加人数：27名（事務局を含む）



事例集交流会



奈佐の浜海岸

◆事例集交流会の活動報告

登壇者の発表概要

■海の問題解決のために流域圏での連携を！

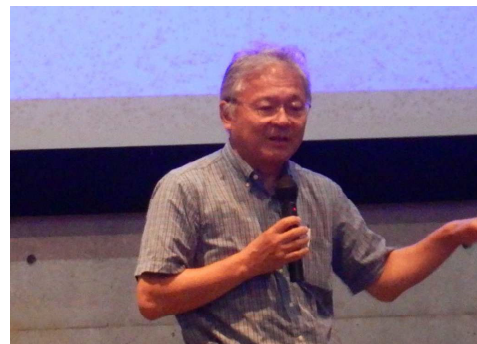
青木伸一さん（大阪大学名誉教授・海部会座長）

1960年代ごろから問題になっている内湾域の水質悪化や水産資源の劣化は、これまで多くの努力にも関わらず、あまり改善が見られていません。その理由は環境問題のスケールが管理者のスケール（河川、海岸、漁場など）を超えていることにあります。環境管理をするには管理主体相互の連携が必要不可欠です。海は流域の末端に位置し、山から海までのすべての地域の影響を受けているので、海の問題は海に関係する人々だけでは決して解決できません。海の担い手をつくることは流域圏の担い手をつくることでもあるのです。

■海の恵みと変化について

平賀大蔵さん（海の博物館 館長）

海の博物館は、漁師、海女、船乗り、そして海辺に住む人々が海と親しく付き合ってきた歴史と現在、未来を伝える「海と人間」の博物館です。漁師さん達への聞き書きによると、漁獲量はかつてとは比べものにならないほど減ったと言います。鳥羽市でのアワビの漁獲量は昭和45年で200t以上獲れていたものが20t程度になっています。海女さんは、海藻がとても減ったと言っています。こうしたことを記録し、公開することが重要と考えています。干潟の生き物も減りました。生き物が減ると人も来なくなります。豊かな海を取り戻すために、若い人の力を借りたいと思います。なぜ農業や工業のための水があるのに、水産業のための水がないのかを問いかけていきたいです。





■伊勢湾・三河湾と流域の森林

蔵治光一郎さん（東京大学大学院教授・山部会座長）

流木はかつてとても貴重な資源とされていましたが、60年くらい前の燃料革命によって、エネルギーを化石燃料で賄うようになり、一転して価値のないゴミ同然のものになってしまいました。60年前以降今に至るまで、山へ柴刈りに行く人もいなくなり、山の樹木の量は増え続けてきました。漁業者のみなさまにとって、大雨のたびに押し寄せる流木は、災害でしかないことは理解できますが、流木を減らすための手段を考えるため、まず山・川・海の関係者が対話し、信頼関係を築くことから始めてはどうでしょうか。

■森と海を繋ぐことー海女の森プロジェクトー

小田和人さん（海女の森プロジェクト 代表）

海女の森プロジェクトは森林を計画的に伐採し、蒸散量を抑えて里山の保水力を高め、野生生物の生息地の再生とCO₂の削減を実現し持続可能な社会をつくることを目指しています。

山に木が生えている方が自然豊かと思われてきましたが、現在は大きくなり過ぎ、蒸散量が増えている状態です。樹木の伐採が適切に行われれば森に光が入り、下草が茂り、蒸散がコントロールされるため、森から湧き出るミネラル豊富な水が増えていきます。魚つき林から供給される水は海藻等の生育を促進し、石灰藻の繁殖による海の砂漠化を予防します。適切な森林伐採を進めることで集中豪雨を減らし、森と海の豊かさをつなげていきたいと考えています。

■伊勢湾の貧酸素水塊の問題について

岡田誠さん（三重県水産研究所）

貧酸素水塊は伊勢湾の漁業が盛んだった1960年代から深刻化し、伊勢湾の生物多様性は低くなっていました。20年ほど前は貧酸素水塊の原因は富栄養化だと考えられていましたが、栄養塩が減少しても解消されず、成層の強化や水の動きが弱まることで海底に酸素が供給されないことが原因であることが明らかになってきました。

今後着目すべきは漁業対象種に限らず、出現種や生物多様性の変化だと考えています。

■22世紀奈佐の浜プロジェクトについて

米田紗歩さん、筒井千遥さん（22世紀奈佐の浜プロジェクト）

22世紀奈佐の浜プロジェクトは鳥羽市答志島での海岸漂着ごみが問題となっている中、ごみを出さない社会を構築し、豊かな海を取り戻すことを目的に2012年に設立されました。2018年に発足した学生部会（三重大学や岐阜大学をはじめとする様々な学生）は海岸清掃するだけでなく、答志島について知るための機会づくりとして「答志島合宿」を毎年企画しているほか、流域内外でも活動をしており、長良川や天竜川での交流や根羽村での林業・ミライ合宿等の活動を行っています。これらの活動を通じて山から海まで新たな担い手たちとの繋がりを生み出すことを目指しています。

■鳥羽市で取り組む海ゴミ問題について

中村欣一郎さん（鳥羽市 市長）

鳥羽市では様々な海ごみ問題に取り組んでいます。22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽のSDGsまなブック、海のシリコンバレー構想、海のレッドデータブック等の海ごみ・海岸清掃からも鳥羽の魅力を伝えています。

観光客を相手にするときに重視される「きれい」や「おいしい」だけでなく社会課題やそれに取り組んでいる人を知るといふ観光の在り方に鳥羽らしさを活かしていきたいと考えています。



◆エクスカージョンの活動報告

奈佐の浜海岸



答志島には、風向や海流の影響で、伊勢湾に漂流するゴミの1/4に当たる年間3,000トンが漂着します。当日もゴミが漂着していましたがこれでもピーク時の1/10程度の量です。また、徐放性肥料プラスチックや人工芝片から流出するマイクロプラスチック（5mm以下のプラスチック片）についても確認しました。マイクロプラスチックは伊勢湾の海苔の養殖にも影響していて、海苔の表面にはマイクロプラスチックが付着し、出荷前に丁寧に除去する手間が発生します。



マイクロプラスチック



奈佐の浜海岸周辺の湿地帯



奈佐の浜海岸の近隣にある湿地帯には三重県レッドデータブックにリストアップされているアオヤンマ、ネアカヨシヤンマなどの希少種も生息しています。2010年頃は耕作水田と休耕田湿地が分布していましたが、14年後の現在は耕作水田がなくなり、ヨシが優占する高茎の湿生草地に変化していました。このまま休耕田湿地の放置が数十年続くと乾燥化が進み、ハンノキ等の木本の侵入による樹林化の進行により、湿地としての生物多様性も低下していきます。



海女小屋



海女小屋では海女さんの貴重なお話を伺いました。同じ地区でも漁業権が異なるため地域ごとに潜れる日数も違います。少ない地区では年に7日しか潜れないそうです。また、水中での作業中に網などにゴミが絡まると命にもかかわるようなことになりかねないことや、ゴミは漁船のスクリューを破壊するため、漁業の前に漁船の清掃から始めないといけないそうです。昼食にはこの地区でとれたサザエ等を網の上で焼きました。最後には答志島の天草により作られた新鮮なところてんまでおいしくいただきました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。

